

# 住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第35号 11月10日  
発行 住友化学(株)アグロ事業部  
お客様相談室 0570-058-669  
発行責任者 古津 昇

## 目次

住化武田農薬(株)が住友化学(株)に完全統合・・・	p.1
農家さん訪問記(21)・・・	p.2
住友化学の液肥について(その1)・・・	p.6
りんごの病害虫チョットいい話(9)・・・	p.7
住化アグログループ紹介 日本エコアグロ(株)・・・	p.8
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー・・・	p.10
知って得する防除の仕方・・・	p.11
農薬登録情報・・・	p.12
今月のご相談から・・・	p.12
最近の「お・・・美味しい!」・・・	p.13
コラム・そば談義・・・	p.14
編集後記・・・	p.14



オシドリ(ガンカモ科)45cm、スイレン(スイレン科) 技術顧問 富樫 画

## 住化武田農薬(株)が住友化学(株)に完全統合!

住友化学(株)アグロ事業部 事業部長 野口 等



本誌の発行社でもありました住化武田農薬(株)は、5年間の統合準備期間を本年10月末日に終了し、11月1日に弊社住友化学(株)との完全統合を果しました。

弊社の農薬事業は、1954年の有機リン剤の導入、1962年の国内初の合成殺虫剤スミチオンの独自生産以来、日本の農薬原体メーカーのトップとして日本の農業に農作物保護・生産向上の側面で戦後から長年に亘り参画して参りました。日本が高度経済成長を経て量から質を求める時代となり、日本の農業も増産から高品質・多様性を追求する時代となり農薬市場も大きく変化していく中で、弊社の農薬事業も農業現場に更に近づき、市場のニーズを更に的確に把握する為、1988年に山本農薬(株)を買収し、今般、武田薬品工業(株)の農薬事業買収を完了致しました。

今、日本の農業は大きく変わろうとしております。世界的なGMO作物の登場やバイオ燃料作物の増産、WTO対応問題などが、日本固有の高齢化・担い手不足や農耕地集約化等の問題と複雑に絡み合い、農政も混沌として来ております。しかし、その様な中でも、この「i-農力だより」にご登場頂いた農家さんを始め、元気な日本の農家さんは沢山おられますし、今後も益々増えて行かれるものと考えております。

今般の住化武田農薬(株)との統合により、農業生産者の皆様とのコミュニケーションを更に深め、弊社が農薬・肥料・その他農業資材の販売の枠を越えて、日本の農業現場で如何にお役に立てるかを問われる事になると存じます。何卒、住友化学への更なるご支援の程、お願い申し上げますと共に、本誌の一層のご愛読を賜りたくお願い申し上げます。

**農家さん訪問記 (21)****北海道斜里岳の麓で大規模経営する朝倉さん！**

この日の女満別空港の気温は 10 。緑の大地はすでに褐色で、鉛色の湖が眼下に見えたかと思うと、機体は滑走路をスーッと音もなく着陸した。

今回訪問した朝倉さん宅は、世界（自然）遺産に指定された知床半島の付け根から 25km ほど離れた斜里岳の麓の斜里町にある。10 月半ばだというのに休憩所にはストーブが焚かれ、辺りはすでに初冬の雰囲気である。朝倉睦男さん（52 歳）は青いつなぎの作業着で、インタビューにとつとつと答えてくれた。しかし、今年になって施行された品目横断（品目横断的経営安定対策）の話になると、徐々に熱を帯び語気も強まってくるのである。

**ワサビダイコンは金印(株)と契約栽培！**

朝倉さんは驚くなかれ 162 ヘクタールの耕地をもっている。北海道道東の農家は平均 30 ヘクタール前後であるので、なんと 5 倍以上の面積である。

ワサビダイコン（西洋わさび）は 35 年前から栽培している（現在 20 ヘクタール）。その他作物の内訳は、メインの一つの馬鈴薯（以下イモという）が 46 ヘクタール、秋まき小麦 52 ヘクタール、大豆 19 ヘクタール、ソバ（北早生）25 ヘクタールである。因みに、イモの品種は、栽培量の順にプレバレント、メイクイン、コナフブキ、ホッカイコガネ、トヨシロである。特にメイクインはおいしくて引っ張りだこである。主な出荷先は名古屋と東京市場である。

この土地に住みついたのは、祖父母（祖父：愛知県、祖母：静岡県出身）の時代である。父は現在 83 歳になり、すでに 80 年以上この土地で暮らしていることになる。朝倉さんは中学校を出て定時制高校に通った。当時の学校は「網走南が丘高校季節定時制」といって、農家の子供達が通う学校だった。農作業の忙しい時期は週のうち 2 日間通学し、農閑期の冬になると毎日学校に通う。農業は親の手伝いを含め通算すると 37 年になる。29 歳（昭和 59 年）の時に父から 30 ヘクタールの農地を引き継いだ。父の若い頃は 5 ～ 6 ヘクタールぐらいの規模で農業していたと思う。昔は農耕馬などで耕していたので、今のように規模の拡大はとて出来なかった。イモとワサビダイコンはその当時から栽培していた。

ワサビダイコンは、金印(株)<http://www.kinjirushi.co.jp/miryoku/seiwasa/seiwasa.html> に父が直接交渉して契約栽培を始めた。当時は収穫したワサビは金印の工場のある名古屋まで船で運んでいた。あるとき、材木と一緒に船倉に積んだワサビが港に着いたとき腐っていた。それがきっかけで、斜里に近い網走に金印のワサビ工場が出来た。現在、山林（50 ヘクタール）の一部を金印に貸しており、そこで社員が畑ワサビを栽培している。畑ワサビは木漏れ日が入るぐらいの明るさが生育に良く、防風林の下では明るすぎて育たない。畑ワサビの葉はチューブ入りワサビの色付けにも使用出来る。因みに、ワサビダイコンの葉は辛く

ないので全く利用できない。また、ワサビダイコン(2年もの)の根茎も熟していないと辛い。

## 厳しい環境条件が温暖化で最適地に！

これだけ広大な土地を所有するようになった経緯を尋ねてみた。

ここ斜里岳の麓では、海からの冷たいオホーツク海高気圧が山に向かって上昇気流をつく



ワサビダイコン圃場

る。この現象が梅雨の時期にはしばしば遅延型冷害を引き起こす。また、春は遅く、秋は早いという非常に過酷な条件の土地である。よって、平地で出来る作物が、ここでは低温のために思うような収量がとれない。また、積雪も多く、春になるとすごい風が吹き荒れるところだ。周りの農家はこのような厳しい環境のため次々と離農していった(10年程前)。そのことで耕地が拡大していった。

また、幸いなことに、最近の地球温暖化の影響で農業改良普及員もびっくりするような大豆がとれるようになった(それでもやっと平地並の収量!?)。この地は、秋になると気温が早く下がり、平地で育てた馬鈴薯よりも糖分が乗って美味しいものが採れる。1年程前、大食いタレントの石塚英彦さんが訪ねてきて、こんな美味しいイモを食べたのは初めてと感激していた。

## 品目横断制度がこんなにひどいものだとは！

朝倉さんのボヤキが一段と大きくなったのは、品目横断(\*品目横断的経営安定対策)の話題に移ってからである。

今回の品目横断制度で農家は大変な事態になっているという。この制度では対象作物4作物の過去3年間の栽培実績で補助金の総額が決められる。品目横断4作物の麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょの中で、朝倉さんのところが対象となるのは麦と大豆だけである。それも過去の実績が少なかったこともあり、試算すると850万円ほど減収の見込みである。また、品目ごとに\*\*緑ゲタの部分の補助金が貰えなくなり、実収入は極端に下がることになる。今日まで農作物の販路を開拓し、麦の収穫も自前で行い(麦の収穫はJAに委託する農家がほとんど)段ボール箱にイモを詰めるなど、JAへ



大豆圃場

の手数料を出来るだけ削減する努力をしてきた。従業員が年間を通してバランスよく働けるよう考えた結果である。しかし、品目横断のため肥料・農薬・農機具代のコストダウンを今まで以上に迫られているが、これ以上のコストの削減は難しい。この品目横断制度は農家の



馬鈴薯の選別

不満が大きいことから国も議論しているようだが、法律が変わらないと北海道の農家は死ぬしかない（3年後に見直しがあると言うが？）。

これからは、市場の影響が少ない契約栽培にウエイトを置いていくしかないと思っている。今まで色々と考えて一つの形にしてきたので、今さら大きな方向転換はできない。これからどうすればいいのか、正直云って分からない。品目横断制度が、ここまでひどいも

のだとは思わなかった。

・・・「明るい話を農家にするとぶん殴られるよ」と笑いながら言われた。

## 農業法人を立ち上げて会社組織にしたい！

朝倉さんご夫婦には子供さんがいない。この広大な土地を将来どう運営してゆかれるか尋ねてみた。

将来は、農業法人を立ち上げ会社組織にしたい。今、一番ネックになっているのは資格や構成員の問題である。しかし、ゆくゆくは法人を設立したい。朝倉さんには、農家仲間がいない。理由は同じような形態の農家がないためである。農協にはワサビ組合や部会があるが、直接ワサビ会社（金印）と取引しているため、部会とは全く関係ない。過去からの流れでそうなっているので、逆に部会に入れば権利を切り崩される恐れがあり、あえて部会には近づかないことにしている。取引会社の人々が色々な方を紹介してくれるので、それらの人達から情報を入手している。また、仕事は過去からの継続が多いので、父親は冒険をしない自分に不満だが、これだけ規模が大きくなった今、博打を打つような経営は従業員のことを考えるととても出来ない。



斜里岳

・・・別れ際、朝倉さんから「記事になるような内容はないでしょ」と言われる。すると、今回朝倉さんをご紹介頂いた北陽商事の我妻常務さんから「それを記事にするのがこの人の仕事」と笑いながら言われた。

インタビューが終わったのは午後4時頃であるが、戸外はすでに薄暗く雨も本降りになっていた。畑の写真を撮ろうと、我妻常務の車で案内されて、薄暗い中をどこまでも広がる秋まき小麦やワサビダイコンの畑を見て回った。斜里岳をバックに写真と思っていたが山の姿が全く見えない。後日、弊社の営業担当者に斜里岳を写した写真を送ってもらった。

## 朝倉さんは立派な農業企業人だ！

我妻常務さんは朝倉さんの仲人でもある。具体的な経営内容を聞きそびれたため、代わりに常務さんに概要をお聞きした。

朝倉さん所有のトラクターは23台、運搬車3台、融雪剤を撒くクローラ（キャタピラ付き）が5台ある。トラクターには作業機を付けっ放しで、作業ごとに違うトラクターを使用する。収支について単純に計算すると、イモ畑が46ヘクタールで1反40俵近く収穫できる。1俵が3500円とすれば、6500万円ほどになる。小麦も面積から換算して約4000万円、



大きな倉庫

ワサビとソバを合わせれば1.5億円近くの粗収入となる。そこから人件費3000万円以上（従業員7名、パート8名）、肥料農薬代3000～4000万円、機械代（減価償却）3000万円などを差し引くと、大よその利益が見えてくる。

大型農家の悩みは人件費だ。冬の農閑期に雇用する必要はないのだが、毎年農繁期のみ雇うわけにはいかない。経験豊かな人を雇うためには年間を通して雇わなければ誰も

来てくれない。そこで、農業法人を立ち上げ会社組織にしたいという気持ちはよく分かるという。

そのようなことを、遠くにみえる斜里の街のあかりをぼんやりと眺めながら、我妻常務さんが運転する車の中で聞いていた。私の頭の中からは「品目横断的経営安定対策」がいかに農家いじめの制度であるか、朝倉さんが何度も話された言葉が離れなかった。

（古津）

**\*品目横断的経営安定対策**：日本は担い手を中心とする農業構造の改革が遅れている。外国は、複数の作物を組合せた営農が行なわれている。その格差が大きい土地利用型作物を対象としている。

**\*\*緑ゲタ**：諸外国との生産条件格差から生じる不利を補正するための対策「生産条件不利交付金（通称：ゲタ対策）」のうち「過去の生産実績に基づく交付金」のことを指す。この助成金は、WTO 農業協定上「緑の政策」に位置付けられることから、「緑ゲタ」と呼ばれている。品目横断制度では、平成16～18年に麦・大豆・てん菜・でん粉原料用ばれいしょを生産・出荷した生産者に支払われる。

[目次へ戻る](#)

## 住友化学の液肥について(その1)

### 1. はじめに

住友液肥は、昭和36年に日本で初めての液体肥料として生産が開始され、液肥の代表商品として約50年間国内で愛用されてきました。灌漑水への混用、あるいは葉面散布で、野菜・果樹・花き・芝生・茶など各種作物に使用することができます。当社の住友液肥について、今回からシリーズで紹介いたします。

### 2. 住友液肥の主な特長

水になじみ易く、拡散性が高いため、土壌中によく浸透して早く吸収されます。また、流亡が少ないため、施肥効率が高くなります。

不純物が無いため、土壌を傷めることもなく、塩類集積を防げます。

肥料成分は速効性のものが主体ですので、すぐに作物に吸収され、土に残りません。

灌水と同時に施肥すると根元まで早く到達するので、土壌中で移動しにくいリン酸の吸収率が特に高くなります。

### 3. 住友液肥の銘柄

住友液肥には無機液肥、有機成分入り液肥、育苗用液肥等、様々な銘柄があります。今回は、最も歴史のある住友液肥1号、2号について紹介いたします。次回以降、この他の銘柄をシリーズで紹介いたします。

住友液肥1号・・・窒素成分が高いため、軟弱野菜・葉菜類などで茎葉部を大きくしっかりさせたい場合や、キュウリ・ナス・ピーマンなど連続的に収穫する果菜類の追肥に最適です。

住友液肥2号・・・窒素、リン酸、加里のバランスがとれているため、トマトやイチゴなど収穫を安定的に継続する果菜類の追肥に最適です。

銘柄	保証成分(%)			
	窒素全量	内アンモニア性窒素	水溶性りん酸	水溶性加里
住友液肥1号	15	2	6	6
住友液肥2号	10	1.7	5	8

お問い合わせは住友肥料販売店までお願いいたします。

### 肥料用語解説(その4)

液肥とは・・・一般に、液状(懸濁状、ペースト状等を含む)の肥料を言いますが、水に溶かして使用する粉末状の肥料も含める場合があります。肥料取締法における普通肥料の公定規格では、「液状窒素肥料」「液状複合肥料」その他の規格があります。特長は、一般に液状であるため、成分の均一施肥が容易であること、土壌によく浸透すること、肥効が速効的であることなどが挙げられます。

[目次へ戻る](#)

## りんごの病害虫チョットいい話 (9)



## 積雪寒冷地に適応した真菌類

## 「モニリア病」、氷河時代の生き残り？

りんごを栽培する上で発生する病害は数多くありますが、今私たちが食べているりんごが明治になって我国に入ってきて、最初に問題になった病害が「モニリア病」でした。初発生の報告が明治27年ですから、恐らく導入直後から発生していたことが想像されます。最初は北海道、次いで青森県、岩手県、秋田県の北東北3県で発生が大きな問題になりました。多発すると幼果が腐敗して着果量が不足することから、昭和40年頃までは発生の多少がその年の生産量を左右するほどの重要病害でした。



リンゴモニリア病病変部 実腐れを起こし褐変している (岩木町, 2002. 6)

なぜ本病が北日本でのみ問題になるのでしょうか？それはモニリア病菌が寒冷地の条件下でのみ生活を全うできるからと考えられます。

りんごでの感染期間は発芽してから開花までの1ヶ月足らずと短かく、それも発芽間もない柔らかい葉と花器の柱頭のみ感染します。暑い夏は地表面で菌核を形成し、暑さと乾燥に耐えながら来るべき冬をじっと待っています。

子のう菌類である本菌は、子のう盤を形成する子実体が発芽し、子のう盤が正常に開かなければ胞子を飛散させることが出来ず感染を起せないのです。その為には菌核が積雪下の低温湿潤状態にさらされることが必要条件であり、この条件に合う地域が北日本という訳です。丁度秋蒔き小麦や寒冷地の樹木が低温に遭遇して初めて開花ができることと似ておりますね。

本病はりんごに発生する我国固有の病害ですが、北日本には子のう盤が開盤するためのもう一つの良い条件あります。子実体が生育するためには水分が必須ですが、春になると根雪が溶け出し、地表面が湿潤になると共に4~5月は時々春雨が続く気象条件が現れることがあり、これが我国にのみ発生する理由と考えられるのですがいかがでしょうか。

もう一つの疑問として、なぜりんごの導入直後から発生したのでしょうか？

我国にはリンゴ属のカイドウ類やワリンゴ(又はジリンゴ)といわれる小型のりんごが自生しています。これらにモニリア病菌の子のう胞子を接種すると容易に発病することから、モニリア病菌は元々我国に存在していた病菌であり、これが導入された西洋りんごへ感染が拡大したものと思われます。

今回は、モニリア病を効率よく防除する方法について触れたいと思います。(技術顧問 水野)

病害写真提供：弘前大学農学生命科学部・植物病理教室より

[目次へ戻る](#)

住化アグリグループ紹介

日本エコアグロ(株)

## 農産商品の流通・販売のお手伝い！

本誌第 24 号、30 号では、診断と土作り、病害虫管理技術という作物栽培の要点に関する弊社の取組みについて、具体的な事例や考え方を紹介してきました。

農業においては、そのような取組みを通して生産された収穫物を“農産商品”として適切に販売していくことが、次の重要な課題となります。弊社では農産商品部が農産物の流通・販売を担当しております。主に施設野菜を取り扱っており、現地の状況に適応した栽培・生産計画の提案を行い、産地や生産者の方々と十分な協議を重ねながら、出荷計画・スケジュールを組み立てていきます。一方では、量販店や卸売市場など流通関係に対して商品紹介、販売計画、価格交渉などの働きかけを行ないます。このように生産サイドと販売サイドの双方の要望や事情を汲み取りながら、農産物の適切な流通を仲介していきます。

以下に、当社が周年供給体制の構築を目指して取り組んでいる“カンパリトマト”のビジネス事例の流れをご紹介します。

### 1. 栽培品種の選定

- ・ トマトの中でも商品性の高いカンパリ種を選抜し、必要な種苗量を確保

特別栽培の中でも  
希少・特殊な商材

恵まれた風土・気候  
優れた栽培技術

食味の良さは必須  
糖度・酸味・香り

### 2. 産地（生産者）の設定と栽培計画の提案・協議

- ・ 周年供給のために、秋冬作 / 西日本、春夏作 / 東日本それぞれに設定
- ・ 栽培規模、出荷計画（量・スケジュール）の確認
- ・ 商品企画（包装、容量、形状等）の協議・決定
- ・ 販売手法の提案（チラシ・キャッチコピーの立案）  
例：「房採りの宝石。爽やかな酸味と広がる旨味は逸品」
- ・ JAN コードの申請作業など

### 3. 販売先（量販店、卸売市場ほか）への働きかけ

- ・ 出荷計画（量・スケジュール）および販売計画の提案・交渉
- ・ 市場動向のリサーチと販売価格の決定
- ・ 物流・配送の確保
- ・ **栽培基準表の作成・添付**





#### 4. 販売現場での情報を産地へフィードバック

- ・ 消費者の購買動向と“こだわり商材”に対する値ごろ感を常時チェック
- ・ 地域ごとのカンパリへの反応を分析、販売拡大が見込まれる市場へ重点出荷
- ・ 局面に応じて栽培・流通・販売を再点検
- ・ 市場や消費者からの高い評価を生産者へ還元
- ・ 栽培農家に対する研修会等の実施



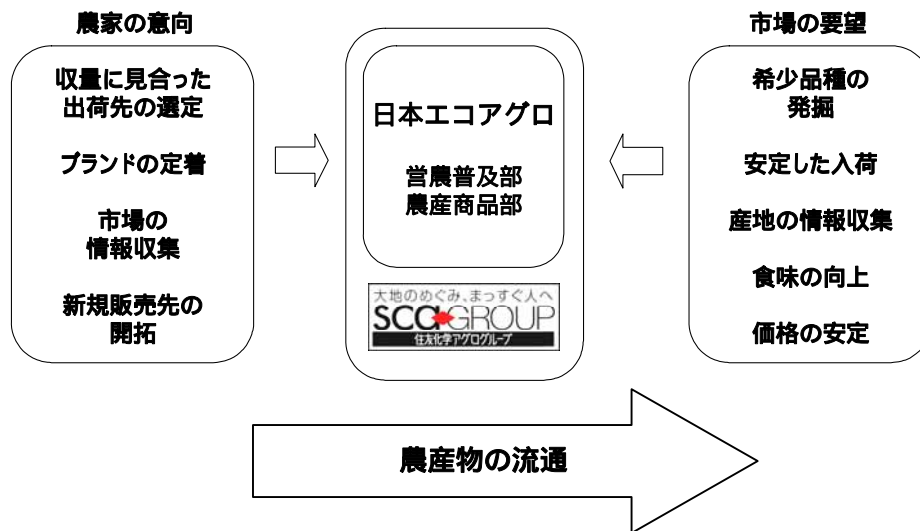
農産商品部は、農産物の「土作りから流通まで」の流れを完結する役割を担って、次のような目標に向けた取り組みも行なっています。

§ 量販店や市場との信頼関係を構築中での販路拡充

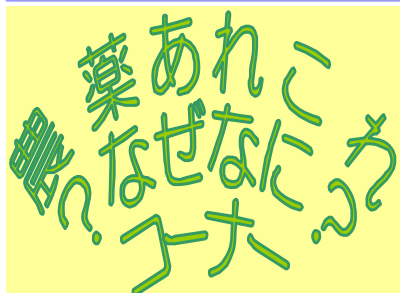
§ 経験と実績の積み上げによるエコアグロ・ビジネスの発展と新しい栽培農家の発掘

§ ハード、ソフトを問わず、住化アグログループのノウ・ハウを最大活用

§ 安心・安全、そして美味しい農産物への更なるアプローチ



[目次へ戻る](#)



## 狭い面積の野菜畑には、どのくらいの散布液を作ればいいのか?

### ご質問

家庭菜園でいろんな野菜を育てています。都会での家庭菜園でして、あんまり広くない面積です(全部で15平方メートルほど)。虫がつくのがイヤなので農薬を使って虫食いの無いきれいな野菜を育てたいと思っていますが、このくらいの面積ですと、例えば希釈するタイプの農薬では、どのくらいの量の希釈液を作ればいいのか。ラベルには使用量として10アールあたりの量が記載されていますが、私のような面積で栽培している者には、見当もつきません。目安がいいので、教えていただけないでしょうか?

### お答え

薄めて散布する農薬の場合、ラベルに書いてある使用液量は通常10アール当たりになります。1アールは100平方メートルなので、1平方メートル当たりには1/1000にすればよいことになります。1ミリリットルは1リットルの1/1000ですから、数字の単位をリットルからミリリットルに読み替えれば、そのまま1/1000になります。

例えば「10アール当たり150~300リットル」となっている場合、1平方メートルでは150~300ミリリットル散布すればいいわけです。

また、薬剤によっては、散布量を規定していないものがあります。このような場合、高さが1メートル以下の作物には1平方メートル当たり100~200ミリリットル、1メートルを超える作物には200~300ミリリットルが目安となります。缶コーヒー1本が200ミリリットル弱ですので、作物が大きいと、意外と少ないと感じるかもしれません。

なお、住友化学園芸(株)など、一般向け園芸剤メーカーのガイド冊子やホームページには、平方メートル当たりの散布量が書いてある場合がありますので、そちらも参考にできます。

(佐伯、南)



カット：加藤

[目次へ戻る](#)

知って得する防除の仕方

## たまねぎの上手な雑草防除について！

### クレマート乳剤、トレファノサイド乳剤など

たまねぎ栽培は、秋まきが関東～九州までで全国約14,000ha、春まきは北海道で13,000haの作付面積があります。今回は秋まき栽培の雑草の体系防除について上手な使用方法をご説明します。

秋まき栽培では春先の気温の上昇とともに雑草が急激に繁茂し、たまねぎの生育に大きく影響します。そのため、雑草対策は定植後の土壌処理と1月～3月の茎葉処理との体系防除になります。弊社ではたまねぎ用として6剤を用意しています。

定植後雑草発生前の全面土壌散布剤には「クレマート乳剤」「トレファノサイド乳剤」「シマジン水和剤」があります。この時期は低温ですので雑草の生育量は少ないのですが、防除に失敗し、雑草が残ると春先の気温上昇で急激に大きくなりますので、残効性のある剤で土壌表面に処理層を作って発生を抑える必要があります。「クレマート乳剤」は、たまねぎに選択性がある薬剤で、畑地一年生雑草のイネ科、アブラナ科、ナデシコ科、スベリヒユ科、アカザ科に効果が高い薬剤ですが、ツククサ、キク科には効果が劣ります。「トレファノサイド乳剤」もたまねぎに選択性があり、2回まで使用できます。畑地一年生雑草のイネ科、ヒユ科、アカザ科、ナデシコ科、スベリヒユ科には高い効果がありますが、ツククサ、カヤツリグサ、キク科、アブラナ科には効果が劣ります。これらの雑草の多い畑では「シマジン水和剤」の使用も検討してください。

また、春先に発生している畑地雑草に対する茎葉処理剤があります。イネ科雑草対策では「セレクト乳剤」をご使用ください。この剤はイネ科雑草のみに有効で、たまねぎに選択性があります。イネ科雑草（メヒシバ・エノコログサ・イヌビエ等）の完全枯殺には1～2週間を必要とします。厄介なスズメノカタビラには更に時間が必要で、低温条件ではこの傾向が顕著です。多発圃場では使用範囲上限（10a 当り 75mL）で処理してください。本剤は3回まで使用ができます。広葉雑草との同時防除には、広葉剤の「バサグラン液剤」や他社広葉剤の「ベタナール乳剤」「レナパック水和剤」「アクチノール乳剤」と混用ができます。

また、春先に発生している畑地雑草に対する茎葉処理剤があります。イネ科雑草対策では「セレクト乳剤」をご使用ください。この剤はイネ科雑草のみに有効で、たまねぎに選択性があります。イネ科雑草（メヒシバ・エノコログサ・イヌビエ等）の完全枯殺には1～2週間を必要とします。厄介なスズメノカタビラには更に時間が必要で、低温条件ではこの傾向が顕著です。多発圃場では使用範囲上限（10a 当り 75mL）で処理してください。本剤は3回まで使用ができます。広葉雑草との同時防除には、広葉剤の「バサグラン液剤」や他社広葉剤の「ベタナール乳剤」「レナパック水和剤」「アクチノール乳剤」と混用ができます。

弊社の広葉雑草剤には「バサグラン液剤」があり、たまねぎの生葉4葉期までの時期に雑草（3～4葉期）に散布することで、アブラナ科、ナデシコ科、スベリヒユ科、アカザ科、タデ科、カヤツリグサ科等の畑地一年生雑草を防除できます。しかし、イネ科には効果がありません。晴天時の散布が効果的で、茎葉部から吸収されますので雑草に十分かかるように散布します。たまねぎの直まき栽培や苗床には薬害を生じることがありますので使用できません。更に大きくなった雑草には非選択性の「ハービー液剤」があります。たまねぎの定植前や定植後の畦間雑草に使用しますが、たまねぎに散布液がかかると薬害を生じます。終わりに、たまねぎ栽培では雑草対策と、病害ではべと病対策が最重要事項です。

（富樫）

[目次へ戻る](#)



**農薬登録情報**

&lt; 10月17日にあった主な適用拡大の内容です &gt;

**適用拡大**      **今回は以下の殺虫剤に適用拡大がありました**

種類	薬剤名	変更点	作物	病害虫名/ 使用目的	使用量ほか	
殺虫剤	アグロスリン乳剤	作物追加	飼料用えん麦	コナヌストモトキ	300倍(使用量は種子1kg当り希釈液20ml)	貯蔵前 1回 種子吹付け処理 又は塗布処理
	ベストガード 水溶剤	作物追加	ししとう	コナジラミ類	1000倍 100~300L/10a	収穫前日まで 3回 散布
		害虫追加	ピーマン	コナジラミ類	1000倍 100~300L/10a	収穫前日まで 3回 散布
			すいか	コナジラミ類	1000~2000倍 100~300L/10a	収穫7日前まで 3回 散布

(佐伯・南)

[目次へ戻る](#)**今月のご相談から****1000倍希釈の方法は？**

**Q**：1000倍液を1リットル作るのにはどうしたらよいでしょうか？

**A**：「1ミリリットルの原液又は、1グラムの水和剤を水1リットルに溶かして下さい」と答えています。

i-農力だよりをご覧頂いている農家の方や、家庭菜園を長年経験されている方は何ら問題ありませんが、初めて農薬を水で希釈する方は少し戸惑われるのではないかと思います。そこで、お客様相談室では1ミリリットルが1リットルの千分の一であることや、1ccが一立方センチで水では1グラムであることをご存知ないことを前提に懇切丁寧にお答えするとともに、「園芸店で100円か200円でスポイトが販売されているので、お買い求め頂いて、それで量って下さい」とお伝えしています。また、「家庭園芸用に、小包装(1グラムや5グラム入り)の製品を販売しているので、それをお求めになってはいかがでしょうか」と提案しています。

実際問題、1グラムを正しく量るのは難しいものです。上記の質問を問い合わせる方は、小包装の製品よりも100グラム入りや500ミリリットル入りの方がお買い得だと思って農家向け製品を購入され、農薬の多くが1000倍で使用するため、有効期限内で使い切れずに、残農薬の処分に困ってしまいがちです。

また、ラジヘリ用農薬にバリダシンエアーという空散剤があります。本剤の原液を8倍にしてラジコンヘリで空中散布する登録があり、この場合は水700ミリリットルに対してバリダシンエアーを100ミリリットル加えて8倍液を調製します。(鈴木)

[目次へ戻る](#)

カット 加藤

# 最近の「お・・美味しい!!」

弊社相談室から佐伯がお送りします  
最近の「お・・美味しい!!」  
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、  
毎月「これぞ!!」というものを紹介します。  
どうぞお楽しみに♪♪♪

## 巨大?会場にて、芋煮会(in 仙台)

いよいよ秋も深まってきましたね。先日は現実逃避の旅に出かけましたよ。なーんて言うと大げさですが(笑)。実は、うちの仙台営業所さんよりお誘いを受けまして、一度味わってみたいと思っていた本場の芋煮をいただきに仙台まで出かけてきました(夫婦でね)。



見よこの人出!すごい賑わい!

芋煮会といえば東北の風物詩ということで、この日、よく晴れた広瀬川の河原は、人でごった返していました。本当にすごい人出でどこまでが1グループなのかわからず、まるで巨大な芋煮会会場と化していました(学生



これが本場の芋煮汁~!

がほとんど。あ、子供会みたいなグループもありました)。あちこち芋煮の煙の上がるなか、なんとかたどり着いた頃にはもう芋煮が出来あがっていました(お手伝いできなくてゴメンナサイ)。

今回は、山形風の「牛肉+醤油味」の芋煮でした。具は里芋、牛肉、ネギ、ちぎりこんにゃく、マイタケなど、ヘルシーなものばかり。味は手作りらしく優しい味わいでいろんな具の良いところが一体となって美味!このほか、新鮮なししとうや、しいたけ、そしてこれまた見事な「山女」を焼いて食べさせてもらったり、岩魚の骨酒を頂いたり(これがうまい!!)・・・。



やかんの中はお酒。骨酒準備中。

青空の下、普段お会いできない皆さんとご一緒できたことも、何よりのご馳走でした。シメのうどん。デザートのリんごまで、すべて美味しくいただきました。

本当にありがとうございました(この場を借りて感謝です!!来年も行きます!!?(笑))。

【おまけ】さて、芋煮会后・・・皆さんと別れた我々夫婦は、せっかく仙台に来たのだからと青葉城公園まで行き、城下からの仙台市内の景色を楽しんだ後、名物「ずんだ餅」をいただいたのでした(これも好きなんですよ)。見た目にも鮮やかな緑色に上品な甘さ、さすが名物だけありますね。文句なく美味しかったです。しかし我々・・・食べ過ぎですな(笑)。ま、いっか。食欲の秋ってことで(いいのか!)。(佐伯)



名物ずんだ餅

[目次へ戻る](#)

**コラム・そば談義**

信州に江戸ソバリエ仲間と、紅葉(もみじ)狩りを兼ねて新そばを食べに出かけた。

初日は飯山市富倉の「はしば食堂」である。そば好きなら一度は覗いてみたいところだ。火縄銃の火口に用いるヤマゴボウ(キク科)の仲間、雄山火口(おやまぼくち)を「つなぎ」に使用している。乾燥させた葉を水で戻し、そば粉に加えると腰が強く、喉越しもよく、茹でると艶が出るのである。また、延ばした生地を新聞紙の上に置くと字が透けて読めるぐらいの極薄でも破れない。

我々が江戸ソバリエと判ると、店主のおばあちゃんは喜んでそば切りを実演してくれた。大きく延ばした生地(畳二畳ほど)を小さく折り畳み、駒板を添えずにザクザクとリズムカルに切っていく。その見事な包丁さばきに感心する。そして、「あんた達にも最後の方は切らせてあげるよ」と言ってそば切り包丁を貸してくれた。「少々切り幅が不揃いになってもいいよ。あんた達が切ったそばは、孫達に食べさせるから平気だよ」と笑うのである。早速、交代で挑戦する。オヤマグチを練り込んだそばは、繊維が絡んでいるためか、切るのに力がいる。毎日、何回もおばあちゃんがそば打ちをしていると思うと本当に頭が下がる。我々が切ったそばは案の定不揃いだ。一人だけ合格点ももらったのは、我々の師匠役でもある K さんだ。「あんたはいつでもお店が出せるよ」と免許皆伝を言い渡され笑いを誘う。

お腹も膨れ、思ってもいなかった体験も出来、そろそろ立ち上がろうとしたとき、おばあちゃんが近況を話し出した。“嫁に来てここのお母さんからそばの打ち方を教えてもらった。今はそれが生きる糧として役立っている。本当にありがたいと思っている。でも、長年連れ添った旦那が今年の夏に亡くなった。昼間はお客さんが大勢来てくれるので気が紛れるが夜になると寂しくて涙ぐむ。また、近所の家が火事になり、寝たきりの老人を助けたのは良いが、代わりに若い人が亡くなり、残された家族が世話をしている。それを見ると気の毒で・・・。また、山間部は傾斜地が多く農機具が倒れケガ人や亡くなる人が多い。農業が出来なくなると山間部ほど過疎が進むと話してくれた。先程まで闊達なおばあちゃんと思っていたが、色々大変なことがあるのだと我々もしんみりする。でも、別れ際には「また来てね! 待っているからね!」と元気な声に戻っていた。我々も「いつまでも元気でね! また来るからね!」とおばあちゃんに声を掛けて店を出た。“そばは、人と人を繋いでくれる”とうまいこと云う人がいた。我々もそばに興味を持ったことで、おばあちゃん少し気持ちが通じ合えたことが嬉しい。

その日は湯田中で一泊し、翌日は鏡池に映る戸隠連山の紅葉を満喫し、戸隠神社中社山門の近くにある「うずら屋」の新そばに舌鼓を打つ。

その時なぜか、おばあちゃんを思い出し「元気でいてね!」と、つぶやく・・・(古津)

「はしば食堂」: <http://www.redolog.net/sobalier/archives/000858.html>

**編集後記**

先月、パンが値上がりしていることを危惧したが、徐々に他の食品にも波及しつつある。

北海道の生産農家が首を傾げるのは、政府が麦の栽培を奨励するが、出荷価格に反映されないとのこと。どこが甘い汁を吸っているのだろうかと言っていた。今朝の日経新聞に、日本の農産物輸出金額が4000億円を突破したと書いてあった。



[目次へ戻る](#)